

2022年度 日本工学院専門学校											
音響芸術科											
サウンドシステム1											
対象	1年次	開講期	後期	区分	必修	種別	講義	時間数	30	単位	2
担当教員	倉本 淳二			実務 経験	有	職種	レコーディングエンジニア				
担当教員紹介											
<p>1986年、銀座スモークスタジオでレコーディングエンジニアとしてのキャリアをスタートし、現在は、アライヴレコーディングスタジオを拠点に、フリーランスエンジニアとして活動中。また、シンガーソングライターの大柴広己と共に“ZOOLOGICAL(ゾロジカル)”という音楽レーベルを運営している。</p>											
授業概要											
<p>エンジニアリングにおいて大切なものの中に、再現性がある。様々な機材の原理・仕組み・パラメーターの意味・それぞれの効果等の理解や意識付けの積み重ねにより、それが高まるものである。スタジオ実習等で実際に使え、経験できる知識を主に習得することを目的とする。</p>											
到達目標											
<p>サウンド基礎での学習を土台として、さらに段階を上げた音響知識の習得する。それらは使うための知識・情報であり、スタジオワーク等実際の作業に役立てることを目標とする。</p>											
授業方法											
<p>対面式とオンライン式の授業を用いて反転授業形式にて授業を進めていく。復習と予習を効率よく取り組むことができる体制を整える。前回までの各項目を理解した上での次項目へ繋がるため、復習も随時行いながら進行する。復習や仮説においては各自の発言の機会もあるので、積極的な参加が望ましい。映像、音響資料も多用する。</p>											
成績評価方法											
<p>試験・課題 80% 試験を総合的に評価する 平常点 20% 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する</p>											
履修上の注意											
<p>この授業では、音を扱うプロとしてノイズと捉えられる授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。</p>											
教科書教材											
参考書・参考資料等は、授業中に指示する。											
回数	授業計画										
第1回	信号の流れとレベル：基準レベルとアンプの働き										
第2回	イコライザー1：イコライザーの動作(ピーキングとシェルビング)										
第3回	イコライザー2：マルチバンドイコライザーとフィルター										
第4回	イコライザー3：いろいろなイコライザーやフィルター										
第5回	ステレオマイキング1：A-B方式とX-Y方式										

2022年度 日本工学院専門学校	
音響芸術科	
サウンドシステム1	
第6回	ステレオマイキング2：M-S方式とその他様々なステレオマイク方式
第7回	レベルとメーター：レベルの種類と異なるメーターの用途、ヘッドルームについて
第8回	エフェクター1：ディレイの仕組みと使い方
第9回	エフェクター2：リバーブの仕組みと使い方
第10回	エフェクター3：コンプレッサー/リミッターの仕組みと使い方
第11回	エフェクター4：よく使われるエフェクターについて
第12回	音声サンプル処理：呼び出し速度と、ピッチ・倍音構成の処理
第13回	デジタルオーディオ2：ビットレートと、32ビット浮動小数点処理
第14回	マスタリング：CDや配信音源のマスタリング作業について
第15回	総括(まとめ)：サウンド基礎・サウンドシステム1 総括(まとめ)